

App Bridge Monitor
Agent 監視サービス
エラー判定条件ガイド

Ver. 1. 19. 0

目次

1. 本書の役割	1
2. 監視設定でのエラー判定条件	2
3. CPU ビジーのエラー判定条件	4
3.1 CPU ビジーの条件設定	4
3.2 CPU ビジーの条件選出	6
3.3 CPU ビジーの条件判定	6
3.4 CPU ビジーの初期値	6
4. 物理メモリ容量のエラー判定条件	8
4.1 物理メモリ容量の条件設定	8
4.2 物理メモリ容量の条件選出	10
4.3 物理メモリ容量の条件判定	10
4.4 物理メモリ容量の初期値	10
5. 仮想メモリ容量のエラー判定条件	11
5.1 仮想メモリ容量の条件設定	11
5.2 仮想メモリ容量の条件選出	13
5.3 仮想メモリ容量の条件判定	13
5.4 仮想メモリ容量の初期値	13
6. ディスクビジーのエラー判定条件	14
6.1 ディスクビジーの条件設定	14
6.2 ディスクビジーの条件選出	16
6.3 ディスクビジーの条件判定	16
6.4 ディスクビジーの初期値	16
7. ディスク容量のエラー判定条件	18
7.1 ディスク容量の条件設定	18
7.2 ディスク容量の条件選出	20
7.3 ディスク容量の条件判定	20
7.4 ディスク容量の初期値	20
8. プロセスのエラー判定条件	22
8.1 プロセスの条件設定	22
8.2 プロセスの条件選出	24
8.3 プロセスの条件判定	24
8.4 プロセスの初期値	24
9. イベントログのエラー判定条件	25
9.1 イベントログの条件設定	25
9.2 イベントログの条件判定	27
9.3 イベントログの初期値	27

9.4 Agent によるエラー判定	27
10. イベントログの除外判定条件.....	28
10.1 イベントログ（除外）の条件設定.....	28
10.2 イベントログ（除外）の条件判定.....	30
10.3 イベントログ（除外）の初期値.....	30
10.4 Agent による除外判定	30
11. テキストログのエラー判定条件.....	31
11.1 テキストログの条件設定.....	31
11.2 テキストログの条件判定.....	33
11.3 テキストログの初期値.....	33
11.4 フォルダパスの正規表現補正.....	33
11.5 Agent によるエラー判定	33
12. テキストログの除外判定条件.....	34
12.1 テキストログ（除外）の条件設定.....	34
12.2 テキストログ（除外）の条件判定.....	36
12.3 テキストログ（除外）の初期値.....	36
12.4 フォルダパスの正規表現補正.....	36
12.5 Agent による除外判定	36
13. DB 容量のエラー判定条件.....	37
13.1 DB 容量の条件設定	37
13.2 DB 容量エラーの条件選出	39
13.3 DB 容量の条件判定	39
13.4 DB 容量の初期値	39
14. ハートビートエラー.....	40
14.1 ハートビートエラーとは.....	40
14.2 ハートビート監視の設定.....	40
14.3 スケーリング制御時のハートビート監視.....	41
14.4 Agent サービス監視とハートビートエラー	41
14.5 ハートビートエラー回復の通知メッセージ.....	41

1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor Agent 監視におけるエラー判定条件設定について説明するものです。

2. 監視設定でのエラー判定条件

App Bridge Monitor Agent 監視サービスの設定は、Agent による対象設定と Web サイトによるエラー判定条件で実施します。

監視項目	Agent（監視対象設定）	Web サイト（エラー判定条件）
イベントログ監視	監視対象とするイベントログを指定する。デフォルトでシステム、アプリケーションが対象となる (Windows Agent のみ)	エラーとするソース、メッセージ IDなどを指定する
テキストログ監視	監視対象とするフォルダパス、ファイルマスクなどを指定する	エラーとする文字列などを指定する
サービス監視	監視対象とするサービスを指定する	－
プロセス監視	監視対象とするプロセスを指定する	エラーとするプロセス数などを指定する
CPU ビジー監視	監視する CPU を指定する。デフォルトで全ての CPU が対象となる	エラーとするビジー率などを指定する
ディスクビジー監視	監視するディスク装置を指定する。デフォルトで全ディスク装置が対象となる	エラーとするビジー率などを指定する
ディスク容量監視	監視するドライブを指定する。デフォルトで全ハードディスクが対象となる	エラーとする空き容量などを指定する
物理メモリ監視	デフォルトで監視対象となる	エラーとする空き容量などを指定する。デフォルトではエラー対象とならず、統計情報のみ取得される
仮想メモリ監視	デフォルトで監視対象となる	エラーとする空き容量などを指定する
SQL Server 監視	監視するデータベースを指定する (Windows Agent のみ)	エラーとするデータベース空き容量などを指定する
ネットワークビジー監視	デフォルトで全 NIC が対象となる	－（統計情報のみでエラー通知は実施されません）

Web サイトでエラー監視条件を設定するには、ServiceAdmin 以上の権限で、App Bridge サイトにログインいただき、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックします。

オーナー基本設定

エラー判定条件

カスタム監視

抑止条件

通知振分条件

標準通知先

電話通知先

監視照会

Menu > ノード一覧

ノードCD(前方一致)

検索

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング制御
CS1	CloudServices1号機	 Windows(Microsoft Azure)	☒
LX1	Linuxサーバ1号機	 Linux(On-Premises)	☐
WS1	Windowsサーバ1号機	 Windows(Amazon EC2)	☐

3. CPU ビジーのエラー判定条件

3.1 CPU ビジーの条件設定

CPU ビジーのエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[CPU ビジー]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧

CPUビジー

物理メモリ容量

仮想メモリ容量

ディスクビジー

ディスク容量

プロセス

イベントログ

イベントログ(除外)

テキストログ

テキストログ(除外)

DB容量

Ping応答

Http応答

TCPPort応答

エラー判定条件は、表示順に検索され、最初に検索条件に該当した判定条件が使用されます

[追加](#)

	ノードCD/[ノードタグ]	プロセッサ番号	ビジー率(パーセント)
編集	OS1	(比較しない)	90
編集	[WEB1]	(比較しない)	90
編集	(ノード指定なし)	(比較しない)	90

一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	"(指定ノードなし)"は最下位とみなします
2	CPU 名	昇順	
3	利用開始日時	昇順	

表示された画面で CPU ビジーのエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(CPUビジー)

検索条件

OK削除Cancel

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag,Tag,Tag,...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17

14:51

利用終了日時

☐ 設定する

プロセッサ番号

☒ 比較しない

☐ 比較する

プロセッサ番号は0から始まる番号を入力してください
プロセッサ平均を指定する場合は“Average”と入力してください

判定条件

ビジー率(パーセント)上限

90

上限超過制限時間(分)

15

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	
プロセッサ番号	対象のプロセッサ番号を指定します。「比較しない」とした場合、全プロセッサ番号が対象となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
ビジー率（パーセント）上限	異常と判定する閾値を指定します	
上限超過制限時間	エラーとする超過時間を指定します	

3.2 CPU ビジーの条件選出

1つの監視データで使用されるエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、監視データに該当するものを以下の順で選出します。

適用順	エラー判定条件			対象となる監視データ
	ノード CD	ノードタグ	プロセッサ番号	
1	ノード指定	なし	比較する	指定ノードであり、指定プロセッサの監視データ
2	同上	なし	比較しない	指定ノードの監視データ
3	ノード指定なし	あり	比較する	ノードタグに該当するノードであり、指定プロセッサの監視データ
4	同上	同上	比較しない	ノードタグに該当するノードの監視データ
5	同上	なし	比較する	指定プロセッサの監視データ
6	同上	同上	比較しない	全ての監視データ

3.3 CPU ビジーの条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Good の判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・現在の CPU ビジー率 > エラー判定条件の CPU ビジー率上限 ・超過期間（※1） ≥ 上限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・現在の CPU ビジー率 > エラー判定条件の CPU ビジー率上限 ・超過期間（※1） < 上限超過制限時間
Good	上記以外

※1：エラー判定条件の CPU ビジー率上限を超過してからの時間

3.4 CPU ビジーの初期値

CPU ビジーのエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノード CD	ノードタグ	プロセッサ番号	ビジー率上限	上限超過時間（分）
（ノード選択なし）	なし	比較しない	90	15

3.5 ノードタグ利用の制限事項

Windows Agent Ver. 1.19.0 未満をご利用で、以下の条件に該当するエラー判定条件が存在した場合、当該ノードではノードタグ指定のエラー条件判定が無効となります。

- ノード CD に特定ノードを指定している
- プロセッサ番号を「比較しない」としている

本制限事項は、利用期間の設定に関わらず、上記条件に該当した場合、ノードタグによるエラー条件判定が無効となります。タグによる条件判定を実施する場合、上記条件に該当するエラー判定条件を削除するか、「有効」のチェックを外して下さい。

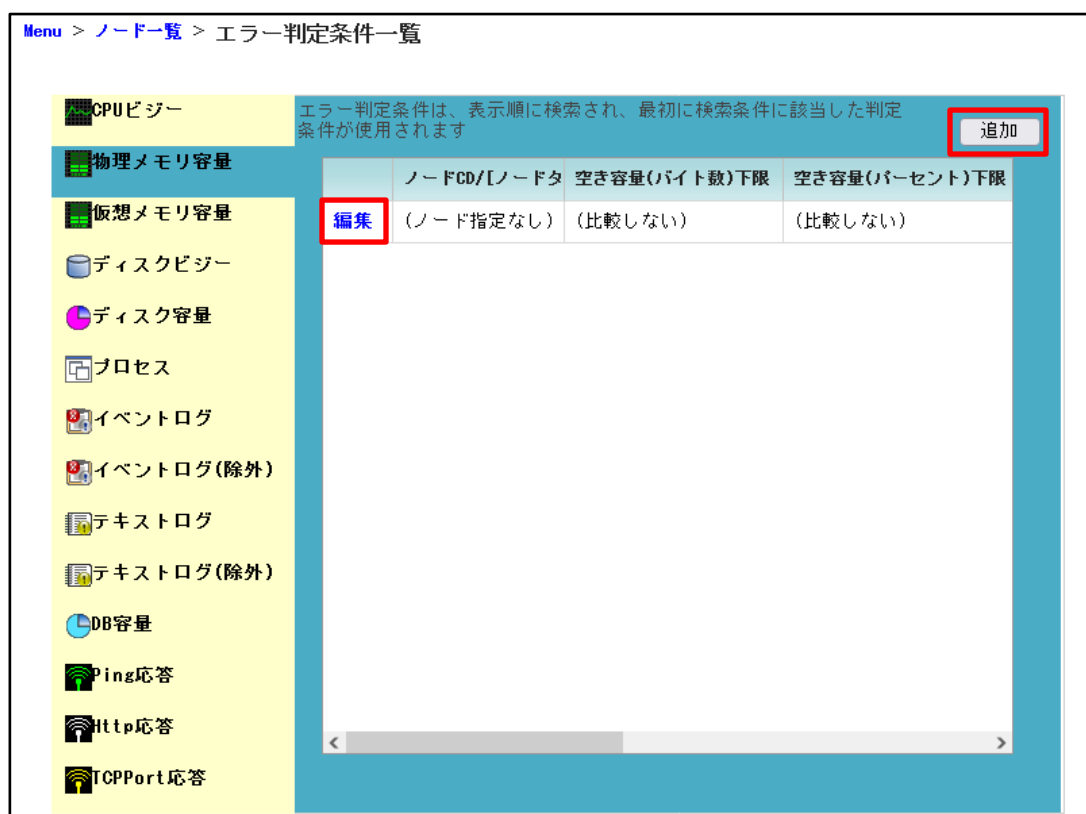
なお、Windows Agent Ver. 1.19.0 以降、Linux Agent をご利用の場合、本制限事項は発生致しません。

4. 物理メモリ容量のエラー判定条件

4.1 物理メモリ容量の条件設定

物理メモリ容量のエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[物理メモリ容量]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面で物理メモリ容量のエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(物理メモリ容量)

検索条件

OK

削除

Cancel

ノードCD	(ノード指定なし) ▾
ノードタグ	Tag,Tag,Tag,...
有効にする	☒
利用開始日時	2022-01-1714:54
利用終了日時	☐ 設定する

判定条件

空き容量 (バイト数) 下限	☒ 比較しない ☐ 比較する
空き容量 (パーセント) 下限	☒ 比較しない ☐ 比較する
下限超過制限時間(分)	30

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
空き容量 (バイト数) 下限	異常と判定する閾値をバイト数で指定します	
空き容量 (パーセント) 下限	異常と判定する閾値をパーセントで指定します	
下限超過制限時間	エラーとする超過時間を指定します	

4.2 物理メモリ容量の条件選出

1つの監視データで使用されるエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件		対象となる監視データ
	ノードCD	ノードタグ	
1	ノード指定	なし	指定ノードの監視データ
2	ノード指定なし	あり	ノードタグに該当するノードの監視データ
3	同上	なし	全ての監視データ

4.3 物理メモリ容量の条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Goodの判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在の物理メモリ空き容量<エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限 ・超過期間（※1） $\geq$ 下限超過制限時間
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在の物理メモリ空きパーセント<エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限 ・超過期間（※2） $\geq$ 下限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在の物理メモリ空き容量<エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限 ・超過期間（※1）<下限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在の物理メモリ空きパーセント<エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限 ・超過期間（※2）<下限超過制限時間
Good	上記以外

※1：エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限を下回ってからの時間

※2：エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限を下回ってからの時間

4.4 物理メモリ容量の初期値

物理メモリ容量のエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノードCD	ノードタグ	空き容量（バイト数）下限	空き容量（パーセント）下限	下限超過時間（分）
（指定ノードなし）	なし	比較しない	比較しない	30

上記初期値は、判定結果が常にGoodとなります。必要に応じて、監視条件を変更し、ご利用下さい。

5. 仮想メモリ容量のエラー判定条件

5.1 仮想メモリ容量の条件設定

仮想メモリ容量のエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[仮想メモリ容量]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧

エラー判定条件は、表示順に検索され、最初に検索条件に該当した判定条件が使用されます

追加

ノードCD/[ノードタ	空き容量(バイト数)下限	空き容量(パーセント)下限
(ノード指定なし)	(比較しない)	10

編集

仮想メモリ容量

CPUビジー

物理メモリ容量

ディスクビジー

ディスク容量

プロセス

イベントログ

イベントログ(除外)

テキストログ

テキストログ(除外)

DB容量

Ping応答

Http応答

TCPPort応答

一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面で仮想メモリ容量のエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(仮想メモリ容量)

検索条件

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag,Tag,Tag,...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17

14:57

利用終了日時

☐ 設定する

OK

削除

Cancel

判定条件

空き容量(バイト数)下限

☒ 比較しない
☐ 比較する

空き容量(パーセント)下限

☐ 比較しない
☒ 比較する 10

下限超過制限時間(分)

15

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
空き容量(バイト数) 下限	異常と判定する閾値をバイト数で指定します	
空き容量(パーセント) 下限	異常と判定する閾値をパーセントで指定します	
下限超過制限時間	エラーとする超過時間を指定します	

5.2 仮想メモリ容量の条件選出

1つの監視データで使用されるエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件		対象となる監視データ
	ノードCD	ノードタグ	
1	ノード指定	なし	指定ノードの監視データ
2	ノード指定なし	あり	ノードタグに該当するノードの監視データ
3	同上	なし	全ての監視データ

5.3 仮想メモリ容量の条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Goodの判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在の仮想メモリ空き容量<エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限 ・超過期間（※1）$\geq$下限超過制限時間
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在の仮想メモリ空きパーセント<エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限 ・超過期間（※2）$\geq$下限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在の仮想メモリ空き容量<エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限 ・超過期間（※1）<下限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在の仮想メモリ空きパーセント<エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限 ・超過期間（※2）<下限超過制限時間
Good	上記以外

※1：エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限を下回ってからの時間

※2：エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限を下回ってからの時間

5.4 仮想メモリ容量の初期値

仮想メモリ容量のエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノードCD	ノードタグ	空き容量（バイト数）下限	空き容量（パーセント）下限	下限超過時間（分）
（指定ノードなし）	なし	比較しない	10	15

6. ディスクビジーのエラー判定条件

6.1 ディスクビジーの条件設定

ディスクビジーのエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[ディスクビジー]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧

CPUビジー

物理メモリ容量

仮想メモリ容量

ディスクビジー

ディスク容量

プロセス

イベントログ

イベントログ(除外)

テキストログ

テキストログ(除外)

DB容量

Ping応答

Http応答

TCPPort応答

エラー判定条件は、表示順に検索され、最初に検索条件に該当した判定条件が使用されます

追加

	ノードCD/ノードタグ	物理ドライブ名	ビジー率(パーセント)上限	上限値
編集	(ノード指定なし)	(比較しない)	90	15

一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	ドライブ名	昇順	
3	利用開始日時	昇順	

表示された画面でディスクビジーのエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(ディスクビジー)

検索条件

OK

削除

Cancel

ノードCD	(ノード指定なし) ▾
ノードタグ	 Tag, Tag, Tag, ...
有効にする	☒
利用開始日時	2022-01-17 15:00
利用終了日時	☐ 設定する
物理ドライブ名	☒ 比較しない ☐ 比較する

判定条件

ビジー率(パーセント)上限	90
上限超過制限時間(分)	15

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	
物理ドライブ名	Windows の場合、物理ディスク名を指定します。Linux の場合、デバイス名を指定します	

【判定条件】

項目	内容	備考
ビジー率 (パーセント) 上限	異常と判定する閾値をパーセントで指定します	
上限超過制限時間	エラーとする超過時間を指定します	

6.2 ディスクビジーの条件選出

1つの監視データで使用されるエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件			対象となる監視データ
	ノードCD	ノードタグ	物理ドライブ名	
1	ノード指定	なし	比較する	指定ノードであり、指定ドライブの監視データ
2	同上	なし	比較しない	指定ノードの監視データ
3	ノード指定なし	あり	比較する	ノードタグに該当するノードであり、指定ドライブの監視データ
4	同上	同上	比較しない	ノードタグに該当するノードの監視データ
5	同上	なし	比較する	指定ドライブの監視データ
6	同上	同上	比較しない	全ての監視データ

6.3 ディスクビジーの条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Goodの判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・現在のディスクビジー率>エラー判定条件のディスクビジー率上限 ・超過期間(※1)≥上限超過制限時間
Warning	以下の条件を全て満たす ・現在のディスクビジー率>エラー判定条件のディスクビジー率上限 ・超過期間(※1)<上限超過制限時間
Good	上記以外

※1：エラー判定条件のディスクビジー率上限を超過してからの時間

6.4 ディスクビジーの初期値

ディスクビジーのエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノードCD	ノードタグ	物理ドライブ名	ビジー率上限	上限超過時間(分)
(指定ノードなし)	なし	比較しない	90	15

6.5 ノードタグ利用の制限事項

Windows Agent Ver. 1.19.0 未満をご利用で、以下の条件に該当するエラー判定条件が存在した場合、当該ノードではノードタグ指定のエラー条件判定が無効となります。

- ノード CD に特定ノードを指定している
- 物理ドライブ名を「比較しない」としている

本制限事項は、利用期間の設定に関わらず、上記条件に該当した場合、ノードタグによるエラー条件判定が無効となります。タグによる条件判定を実施する場合、上記条件に該当するエラー判定条件を削除するか、「有効」のチェックを外して下さい。

なお、Windows Agent Ver. 1.19.0 以降、Linux Agent をご利用の場合、本制限事項は発生致しません。

7. ディスク容量のエラー判定条件

7.1 ディスク容量の条件設定

ディスク容量のエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[ディスク容量]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。

The screenshot shows the 'Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧' page. On the left is a sidebar with various monitoring categories: CPUビジー, 物理メモリ容量, 仮想メモリ容量, ディスクビジー, **ディスク容量** (highlighted in blue), プロセス, イベントログ, イベントログ(除外), テキストログ, テキストログ(除外), DB容量, Ping応答, Http応答, and TCPPort応答. The main area is titled 'エラー判定条件は、表示順に検索され、最初に検索条件に該当した判定条件が使用されます'. It contains a table with columns: ノードCD/[ノードタグ], 論理ドライブ名, 空き容量(バイト数)下限, and 空き容量. The first row has values: (ノード指定なし), (比較しない), (比較しない), and 10. A red box highlights the '追加' (Add) button in the top right corner, and another red box highlights the '編集' (Edit) link under the first row.

一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	ドライブ名	昇順	
3	利用開始日時	昇順	

表示された画面でディスク容量のエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(ディスク容量)

検索条件

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag,Tag,Tag,...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17

15:02

利用終了日時

☐ 設定する

論理ドライブ名

☒ 比較しない
☐ 比較する

判定条件

空き容量(バイト数)下限

☒ 比較しない
☐ 比較する

空き容量(パーセント)下限

☐ 比較しない
☒ 比較する

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	
論理ドライブ名	Windows の場合、ドライブ名を指定します。 Linux の場合、マウントパスを指定します	

【判定条件】

項目	内容	備考
空き容量(バイト数) 下限	異常と判定する閾値をバイト数で指定します	
空き容量(パーセント) 下限	異常と判定する閾値をパーセントで指定します	

7.2 ディスク容量の条件選出

1つの監視データで使用されるエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件			対象となる監視データ
	ノードCD	ノードタグ	論理ドライブ名	
1	ノード指定	なし	比較する	指定ノードであり、指定ドライブの監視データ
2	同上	なし	比較しない	指定ノードの監視データ
3	ノード指定なし	あり	比較する	ノードタグに該当するノードであり、指定ドライブの監視データ
4	同上	同上	比較しない	ノードタグに該当するノードの監視データ
5	同上	なし	比較する	指定ドライブの監視データ
6	同上	同上	比較しない	全ての監視データ

7.3 ディスク容量の条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Goodの判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在のディスク空き容量<エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在のディスク空きパーセント<エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限
Good	上記以外

7.4 ディスク容量の初期値

ディスク容量のエラー判定条件には以下の初期値が設定されています。

ノードCD	ノードタグ	論理ドライブ名	空き容量（バイト数）下限	空き容量（パーセント）下限
（指定ノードなし）	なし	比較しない	比較しない	10

7.5 ノードタグ利用の制限事項

Windows Agent Ver. 1.19.0 未満をご利用で、以下の条件に該当するエラー判定条件が存在した場合、当該ノードではノードタグ指定のエラー条件判定が無効となります。

- ノード CD に特定ノードを指定している
- 論理ドライブ名を「比較しない」としている

本制限事項は、利用期間の設定に関わらず、上記条件に該当した場合、ノードタグによるエラー条件判定が無効となります。タグによる条件判定を実施する場合、上記条件に該当するエラー判定条件を削除するか、「有効」のチェックを外して下さい。

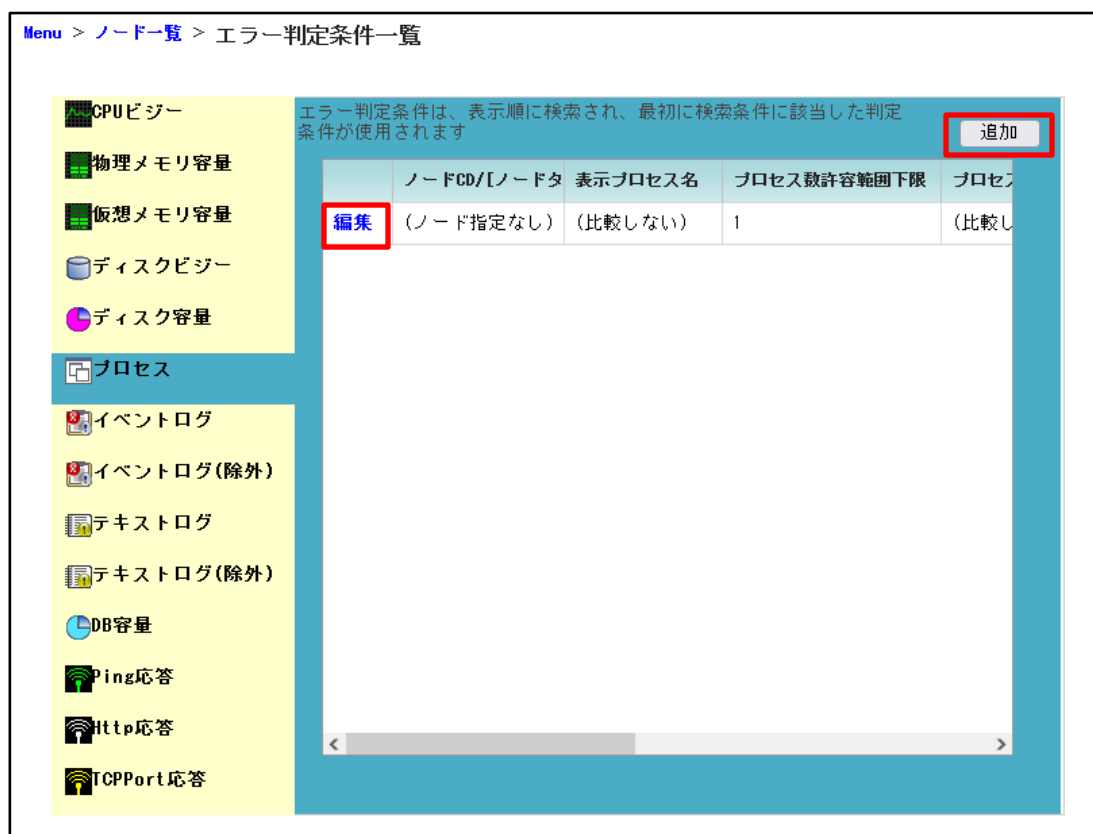
なお、Windows Agent Ver. 1.19.0 以降、Linux Agent をご利用の場合、本制限事項は発生致しません。

8. プロセスのエラー判定条件

8.1 プロセスの条件設定

プロセスのエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[プロセス]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	プロセス名	昇順	
3	利用開始日時	昇順	

表示された画面でプロセスのエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(プロセス)

検索条件

OK削除Cancel

ノードCD	(ノード指定なし) ▾
ノードタグ	Tag,Tag,Tag,...
有効にする	☒
利用開始日時	2022-01-1715:08
利用終了日時	☐ 設定する
表示プロセス名	☒ 比較しない☐ 比較する

判定条件

プロセス数許容範囲下限	1
プロセス数許容範囲上限	☒ 無制限☐ 上限を設定する

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	
表示プロセス名	Agent で設定した表示プロセス名を指定します	

【判定条件】

項目	内容	備考
プロセス数許容範囲下限	正常と判定するプロセス数の下限を指定します	
プロセス数許容範囲上限	正常と判定するプロセス数の上限を指定します	

8.2 プロセスの条件選出

1つの監視データで使用するエラー判定条件は1つです。有効であり、且つ対象期間に該当するエラー判定条件から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件			対象となる監視データ
	ノードCD	ノードタグ	表示プロセス名	
1	ノード指定	なし	比較する	指定ノードであり、指定プロセスの監視データ
2	同上	なし	比較しない	指定ノードの監視データ
3	ノード指定なし	あり	比較する	ノードタグに該当するノードであり、指定プロセスの監視データ
4	同上	同上	比較しない	ノードタグに該当するノードの監視データ
5	同上	なし	比較する	指定プロセスの監視データ
6	同上	同上	比較しない	全ての監視データ

8.3 プロセスの条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Goodの判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の何れかに該当する ・現在のプロセス数<エラー判定条件のプロセス数許容範囲下限 ・現在のプロセス数>エラー判定条件のプロセス数許容範囲上限
Good	何れにも該当しない

8.4 プロセスの初期値

プロセスのエラー判定条件には以下の初期値が設定されています。

ノードCD	ノードタグ	表示プロセス名	プロセス数 許容範囲下限	プロセス数 許容範囲上限
(指定ノードなし)	なし	比較しない	1	無制限

9. イベントログのエラー判定条件

9.1 イベントログの条件設定

イベントログのエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[イベントログ]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧

エラー判定条件は、表示順に検索され、検索条件に該当する判定条件を使用します。何れかの判定条件に合致すれば、エラーとなります

[追加](#)

	ノードCD/[ノードタグ]	ログ名	種類	ソース
編集	(ノード指定なし)	(比較しない)	Error	(比較しない)
編集	(ノード指定なし)	(比較しない)	Critical	(比較しない)

イベントログ

- イベントログ(除外)
- テキストログ
- テキストログ(除外)
- DB容量
- Ping応答
- Http応答
- TCPPort応答

一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面でイベントログのエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(イベントログ)

検索条件

OK

削除

Cancel

ノードCD	(ノード指定なし) ▾
ノードタグ	Tag,Tag,Tag,...
有効にする	☒
利用開始日時	2022-01-17 15:33
利用終了日時	☐ 設定する

判定条件

ログ名を比較する正規表現	☒ 比較しない ☐ 比較する Check ☒ ログ名の大小文字を無視する
イベントの種類	Error ▾
ソースを比較する正規表現	☒ 比較しない ☐ 比較する Check ☒ ソースの大小文字を無視する
イベントID	☒ 比較しない ☐ 比較する
メッセージを比較する正規表現	☒ 比較しない ☐ 比較する Check ☒ メッセージの大小文字を無視する

正規表現とは

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
ログ名を比較する正規表現	ログ名と比較する正規表現	※1
イベントの種類	エラーとするイベントの種類 (Error、Warning など) を指定する	
ソースを比較する正規表現	ソースと比較する正規表現	
イベント ID	エラーとするイベント ID	
メッセージを比較する正規表現	本文と比較する正規表現	

※1: System、Application などのイベントログ名称です。「システム」「アプリケーション」など、イベントログビューアに表示される名称ではないため注意して下さい。ログ名称は、Service Control を起動し、「Setting」-「Watch Service」-「Event Log」 と選択すると表示される Eventlog Watching ウィンドウで[Property]ボタンをクリックすると Event Log Name 欄に表示されます

9.2 イベントログの条件判定

以下の条件を全て満たすエラー判定条件を発見すれば、当該イベントログをエラーと判断し、App Bridge センタに通知します。但し、後述の除外判定条件に該当するとき、通知は抑止されます。

- 有効である
- 対象期間に該当する
- (指定ノードなし) 指定、または指定されたノードである
- ノードタグ指定なし、または指定されたノードタグを保有するノードである
- ログ名を比較しない、またはログ名が正規表現に該当する
- イベントの種類が一致する
- ソースを比較しない、またはソースが正規表現に該当する
- イベント ID を比較しない、またはイベント ID が等しい
- メッセージを比較しない、または正規表現に該当する

9.3 イベントログの初期値

イベントログエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノード CD	ノードタグ	ログ名	イベントの種類	ソースの比較	メッセージ ID	メッセージの比較
(指定ノードなし)	なし	比較しない	Error	比較しない	比較しない	比較しない
(指定ノードなし)	なし	比較しない	Critical	比較しない	比較しない	比較しない

9.4 Agent によるエラー判定

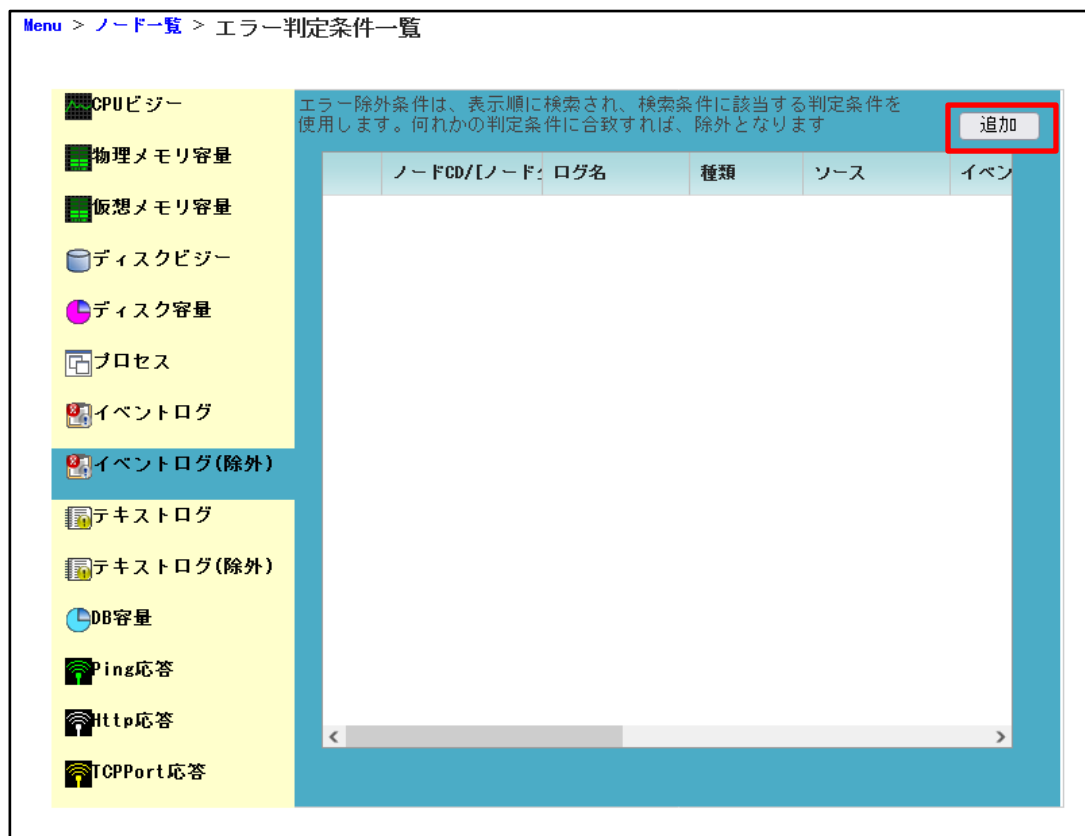
Agent は、監視対象イベントログの内、エラー判定条件に該当するメッセージのみを App Bridge センタに送信します。Agent は、エラー判定条件の更新を規定の間隔 (2 分) で確認し、変更を反映します。

10. イベントログの除外判定条件

10.1 イベントログ（除外）の条件設定

イベントログの除外判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[イベントログ（除外）]タブを選択します。

新しい除外判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存の除外判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面でイベントログの除外判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(イベントログ(除外))

検索条件

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag,Tag,Tag,...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17 15:14

利用終了日時

☐ 設定する

判定条件

ログ名を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ログ名の大小文字を無視する

イベントの種類

Error ▾

ソースを比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ソースの大小文字を無視する

イベントID

☒ 比較しない

☐ 比較する

メッセージを比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ メッセージの大小文字を無視する

正規表現とは

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
ログ名を比較する正規表現	ログ名と比較する正規表現	※1
イベントの種類	エラーとするイベントの種類（Error、Warningなど）を指定する	
ソースを比較する正規表現	ソースと比較する正規表現	
イベント ID	エラーとするイベント ID	
メッセージを比較する正規表現	本文と比較する正規表現	

※1: System、Application などのイベントログ名称です。「システム」「アプリケーション」など、イベントログビューアに表示される名称ではないため注意して下さい。ログ名称は、Service Control を起動し、「Setting」-「Watch Service」-「Event Log」 と選択すると表示される Eventlog Watching ウィンドウで[Property]ボタンをクリックすると Event Log Name 欄に表示されます

10.2 イベントログ（除外）の条件判定

以下の条件を全て満たす除外判定条件を発見すれば、当該イベントログを除外と判断し、App Bridge センタへの通知を抑止します。

- 有効である
- 対象期間に該当する
- （指定ノードなし）指定、または指定されたノードである
- ノードタグ指定なし、または指定されたノードタグを保有するノードである
- ログ名を比較しない、またはログ名が正規表現に該当する
- イベントの種類が一致する
- ソースを比較しない、またはソースが正規表現に該当する
- イベント ID を比較しない、またはイベント ID が等しい
- メッセージを比較しない、または正規表現に該当する

10.3 イベントログ（除外）の初期値

イベントログの除外判定条件に、初期値は設定されません。

10.4 Agent による除外判定

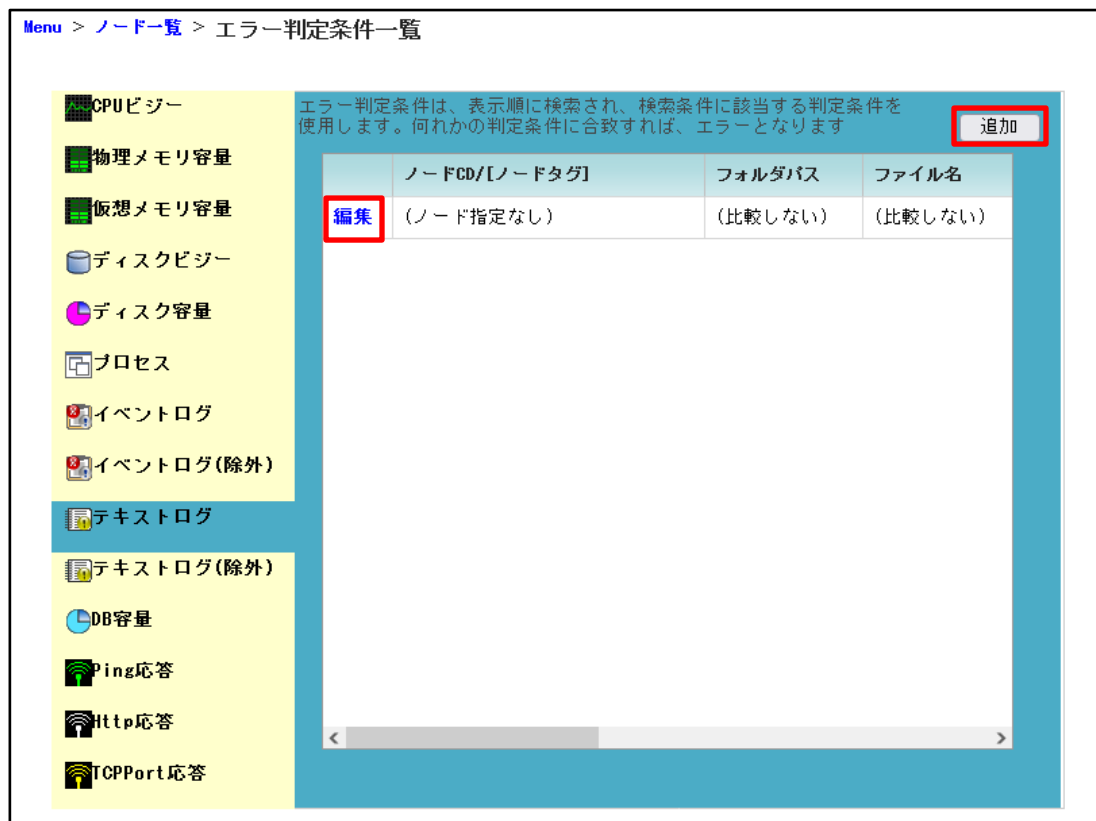
Agent は、除外判定条件に該当したメッセージを App Bridge センタへ送信しません。Agent は、除外判定条件の更新を規定の間隔（2 分）で確認し、変更を反映します。

11. テキストログのエラー判定条件

11.1 テキストログの条件設定

テキストログのエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[テキストログ]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面でテキストログのエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(テキストログ)

検索条件

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag, Tag, Tag, ...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17

15:22

利用終了日時

☐ 設定する

判定条件

フォルダパスを比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ フォルダパスの大小文字を無視する

フォルダパスに使用する「\」は「\\」と重ねて入力してください

ファイル名を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ファイル名の大小文字を無視する

「.」は正規表現では特殊な意味があります。詳細は「[正規表現とは](#)」を参照してください

ファイルの説明を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ファイルの説明の大小文字を無視する

テキストログ情報を比較する正規表現

☐ 比較しない

☒ 比較する

ERROR

Check

☒ テキストログ情報の大小文字を無視する

正規表現とは

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
フォルダパスを比較する正規表現	フォルダパスと比較する正規表現	※1
ファイル名を比較する正規表現	ファイル名とする比較する正規表現	
ファイルの説明を比較する正規表現	Agent で指定したファイルの説明と比較する正規表現	
テキストログ情報を比較する正規表現	テキストログ情報（テキストログの内容）と比較する正規表現	

※1：後述のフォルダパスの正規表現補正を参照

- 32 -

11.2 テキストログの条件判定

以下の条件を全て満たすエラー判定条件を発見すれば、当該テキストログをエラーと判断し、App Bridge センタに通知します。但し、後述の除外判定条件に該当するとき、通知は抑止されます。

- 有効である
- 対象期間に該当する
- (指定ノードなし) 指定、または指定されたノードである
- ノードタグ指定なし、または指定されたノードタグを保有するノードである
- フォルダパスを比較しない、またはフォルダパスが正規表現に該当する
- ファイル名を比較しない、または正規表現に該当する
- ファイルの説明を比較しない、または正規表現に該当する
- テキストログ情報を比較しない、または正規表現に該当する

11.3 テキストログの初期値

テキストログエラー判定条件には、以下の初期値が設定されています。

ノード CD	ノードタグ	フォルダパス	ファイル名	ファイルの説明	テキストログ情報
(指定ノードなし)	なし	比較しない	比較しない	比較しない	ERROR (※1)

※1：英字大文字と小文字を区別しない

11.4 フォルダパスの正規表現補正

エラー判定条件に設定された「フォルダパスを比較する正規表現」で、テキストログのフォルダパスを判定する際、事前に以下の補正を行います。

- 「フォルダパスを比較する正規表現」の末尾が「\$」、且つ末尾の一文字前に「¥」以外が指定されていた場合、末尾を「¥\$」として正規表現確認を実施します。
- テキストログのフォルダパスの末尾が「¥」でない場合、「¥」を付与します。

上記補正により、「C:¥F1」というフォルダパスは「C:¥¥F1¥¥」という正規表現にマッチします。

11.5 Agent によるエラー判定

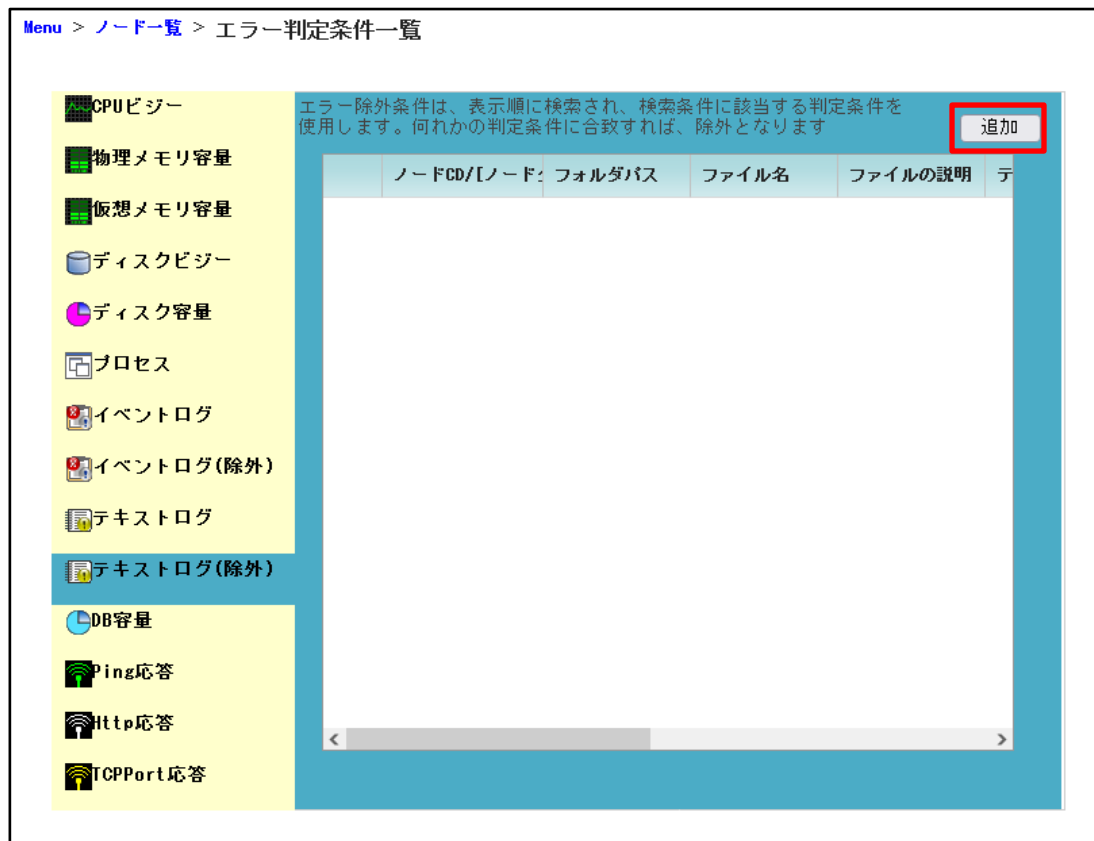
Agent は、監視対象テキストログの内、エラー判定条件に該当するレコードのみを App Bridge センタに送信します。Agent は、エラー判定条件の更新を規定の間隔（2 分）で確認し、変更を反映します。

12. テキストログの除外判定条件

12.1 テキストログ（除外）の条件設定

テキストログの除外判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[テキストログ（除外）]タブを選択します。

新しい除外判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存の除外判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	利用開始日時	昇順	

表示された画面でテキストログの除外判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(テキストログ(除外))

検索条件

OK

削除

Cancel

ノードCD

(ノード指定なし) ▾

ノードタグ

Tag,Tag,Tag,...

有効にする

☒

利用開始日時

2022-01-17

15:23

利用終了日時

☐ 設定する

判定条件

フォルダパスを比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ フォルダパスの大小文字を無視する

フォルダパスに使用する「¥」は「¥¥」と重ねて入力してください

ファイル名を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ファイル名の大小文字を無視する

「」は正規表現では特殊な意味があります。詳細は「正規表現とは」を参照してください

ファイルの説明を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ ファイルの説明の大小文字を無視する

テキストログ情報を比較する正規表現

☒ 比較しない

☐ 比較する

Check

☒ テキストログ情報の大小文字を無視する

正規表現とは

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	

【判定条件】

項目	内容	備考
フォルダパスを比較する正規表現	フォルダパスと比較する正規表現	※1
ファイル名を比較する正規表現	ファイル名とする比較する正規表現	
ファイルの説明を比較する正規表現	Agent で指定したファイルの説明と比較する正規表現	
テキストログ情報を比較する正規表現	テキストログ情報（テキストログの内容）と比較する正規表現	

※1：後述のフォルダパスの正規表現補正を参照

- 35 -

12.2 テキストログ（除外）の条件判定

以下の条件を全て満たす除外判定条件を発見すれば、当該テキストログを除外と判断し、App Bridge センタへの通知を抑止します。

- 有効である
- 対象期間に該当する
- （指定ノードなし）指定、または指定されたノードである
- ノードタグ指定なし、または指定されたノードタグを保有するノードである
- フォルダパスを比較しない、または正規表現に該当する
- ファイル名を比較しない、または正規表現に該当する
- ファイルの説明を比較しない、または正規表現に該当する
- テキストログ情報を比較しない、または正規表現に該当する

12.3 テキストログ（除外）の初期値

テキストログの除外判定条件に、初期値は設定されません。

12.4 フォルダパスの正規表現補正

除外判定条件に設定された「フォルダパスを比較する正規表現」で、テキストログのフォルダパスを判定する際、事前に以下の補正を行います。

- 「フォルダパスを比較する正規表現」の末尾が「\$」、且つ末尾の一文字前に「¥」以外が指定されていた場合、末尾を「¥\$」として正規表現確認を実施します。
- テキストログのフォルダパスの末尾が「¥」でない場合、「¥」を付与します。

上記補正により、「C:¥F1」というフォルダパスは「C:¥¥F1¥¥」という正規表現にマッチします。

12.5 Agent による除外判定

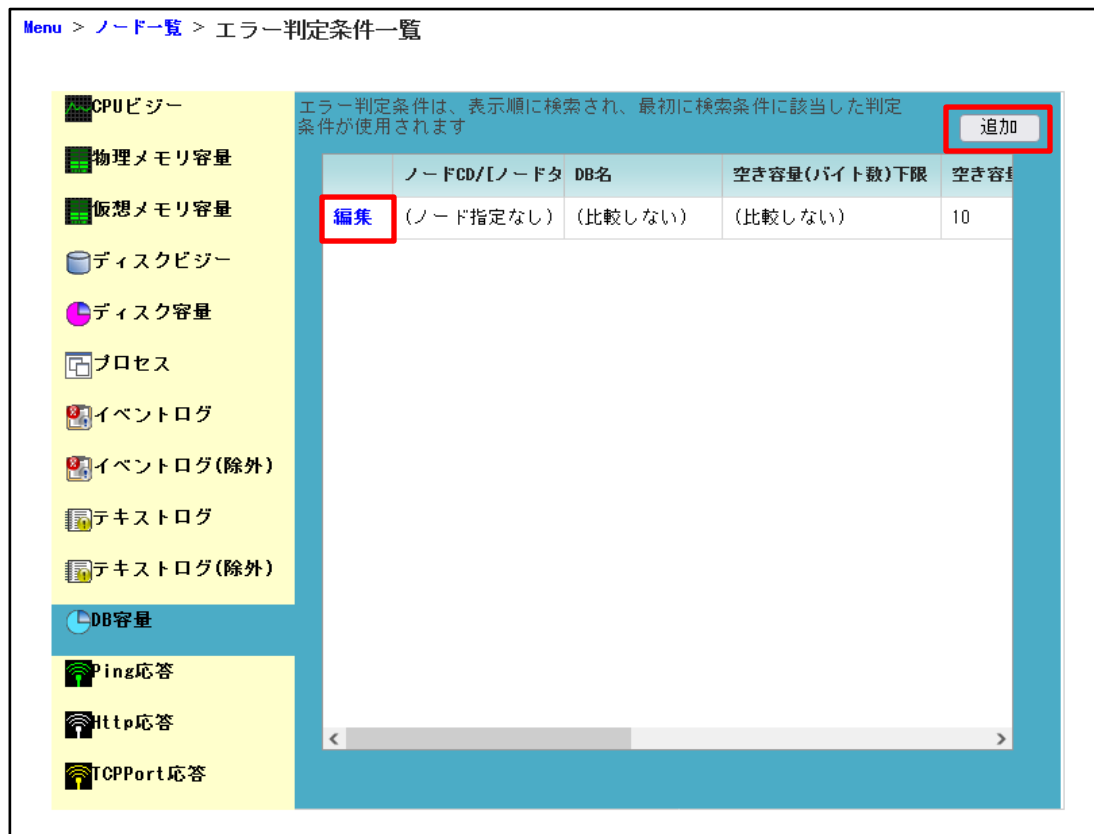
Agent は、除外判定条件に該当したレコードを App Bridge センタへ送信しません。Agent は、除外判定条件の更新を規定の間隔（2 分）で確認し、変更を反映します。

13. DB 容量のエラー判定条件

13.1 DB 容量の条件設定

SQL Server 監視/データベース容量監視のエラー判定条件を設定するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の[エラー判定条件]をクリックし、[DB 容量]タブを選択します。

新しいエラー判定条件を追加する場合は[追加]ボタンを、既存のエラー判定条件を変更する場合は[編集]リンクをクリックします。



一覧のソート順は以下の通りです。

優先順位	キー	昇降順	備考
1	ノード CD/[ノードタグ]	昇順	“(指定ノードなし)”は最下位とみなします
2	DB 名	昇順	
3	利用開始日時	昇順	

表示された画面で DB 容量のエラー判定条件を入力します。

Menu > ノード一覧 > エラー判定条件一覧 > エラー判定条件設定(DB容量)

検索条件

OK

削除

Cancel

ノードCD	(ノード指定なし) ▾
ノードタグ	Tag,Tag,Tag,...
有効にする	☒
利用開始日時	2022-01-17 15:26
利用終了日時	☐ 設定する
DB名	☒ 比較しない ☐ 比較する

判定条件

空き容量(バイト数)下限	☒ 比較しない ☐ 比較する
空き容量(パーセント)下限	☐ 比較しない ☒ 比較する 10

【検索条件】

項目	内容	備考
ノード CD	対象のノードを指定します。(指定ノードなし)を選択した場合、全てのノードを対象とします	
ノードタグ	対象のノードタグを指定します。ノードに設定されたタグと比較され、何れか1つでも一致すれば対象となります。	複数のノードタグが設定可能です
有効にする	チェックオフの場合、本条件は無効となります	
利用開始日時	現在時刻が利用開始日時未満の場合、本条件は無効となります	
利用終了日時	現在時刻が利用終了日時以降の場合、本条件は無効となります	
DB 名	対象のデータベース名を指定します	

【判定条件】

項目	内容	備考
空き容量（バイト数）下限	異常と判定する閾値をバイト数で指定します	
空き容量（パーセント）下限	異常と判定する閾値をパーセントで指定します	

13.2 DB 容量エラーの条件選出

DB 容量のエラー判定で使用するエラー判定条件は 1 つであり、有効であり、且つ対象期間に該当するものの中から、以下の順で選出されます。

適用順	エラー判定条件			対象となる監視データ
	ノード CD	ノードタグ	DB 名	
1	ノード指定	なし	比較する	指定ノードであり、指定 DB の監視データ
2	同上	なし	比較しない	指定ノードの監視データ
3	ノード指定なし	あり	比較する	ノードタグに該当するノードであり、指定 DB の監視データ
4	同上	同上	比較しない	ノードタグに該当するノードの監視データ
5	同上	なし	比較する	指定 DB の監視データ
6	同上	同上	比較しない	全ての監視データ

13.3 DB 容量の条件判定

選出されたエラー判定条件を使用し、エラー判定を以下のとおり実施します。該当するエラー判定条件が存在しないとき、Good の判定となります。

判定結果	条件
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限：比較するを選択 ・現在の DB 空き容量 < エラー判定条件の空き容量（バイト数）下限
Error	以下の条件を全て満たす ・エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限：比較するを選択 ・現在の DB 空きパーセント < エラー判定条件の空き容量（パーセント）下限
Good	上記以外

13.4 DB 容量の初期値

DB 容量エラー判定条件には以下の初期値が設定されています。

ノード CD	ノードタグ	DB 名	空き容量（バイト数）下限	空き容量（パーセント）下限
（指定ノードなし）	なし	比較しない	比較しない	10

14. ハートビートエラー

14.1 ハートビートエラーとは

App Bridge センタは、Agent から監視データが一定期間送信されなければ、ハートビートエラーを発生させます。これにより、サーバ、または Agent のダウンを検知することができます。

14.2 ハートビート監視の設定

ハートビート監視の有効化/無効化の制御、有効化した場合に発行させるまでの間隔（分）と繰り返し間隔（分）を設定することができます。

ハートビートエラーの設定を変更するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞で対象ノードを選択し、ノード詳細画面のメニューから[ノード基本設定]をクリックします。

ノード基本情報	
ノードID	WS1
ノード名	Windowsサーバ11号機
種類	Windows (Amazon EC2)
スケーリング制御	☐

表示されたノード基本設定画面で各項目を設定してください。

ハートビート監視の有効化	☒
発行させるまでの間隔（分）	15
繰り返し発行する	☒
繰り返し発行する間隔（分）	60

また、オーナレベルハートビートエラーの設定を変更するには、＜メインメニュー/監視設定/ノード一覧＞の [オーナ基本設定] をクリックします。設定した内容は、オーナ全体に影響します。

ハートビート監視の有効化	☒
--------------	-------------------------------------

14.3 スケーリング制御時のハートビート監視

ハートビートエラーはノード毎の監視です。スケーリング制御を設定したノードでは、全インスタンスが停止した場合にハートビートエラーが発生します。

14.4 Agent サービス監視とハートビートエラー

Agent は、自分自身のサービス監視を実施しており、当該監視の監視データは 5 分間隔で実施されています。これにより、監視状態に関わらず、最低でも 5 分に一度は監視データが AppBridge センタへ送信され、ハートビート監視はリフレッシュされます。

14.5 ハートビートエラー回復の通知メッセージ

ハートビートエラーが回復した場合、ハートビート回復の通知メッセージが生成されます。当該通知メッセージを通知したい場合、通知振分条件のメッセージの種類と発生理由「すべてのエラーメッセージと回復メッセージ」を設定して下さい。

オーナー基本設定画面でセンタメッセージバージョンを「下位互換」としている場合、ハートビートエラー回復の通知メッセージは、通知振分条件のメッセージの種類と発生理由「すべてのエラーメッセージと回復メッセージ」に該当せず、通知されません。

ハートビートエラー回復を通知対象としたい場合は、オーナー基本設定画面のセンタメッセージバージョンを「最新バージョン」に設定して下さい。